

羅針盤

平成29年度第9号(通算287号)

平成29年12月18日(月) 発行

岡山県総合教育センター

Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

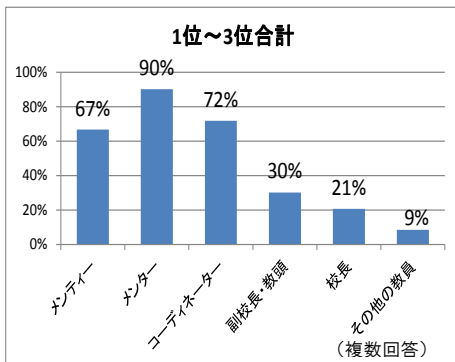
学校の課題解決に向けた校内チーム制の効果的な進め方 I

校内チーム制を機能させるポイント

平成28年度から「岡山県公立学校教員等人材育成基本方針」に基づく校内チーム制が実施され、現在、各校において、「関わり合い」の仕組みが形成されつつあります。この校内チーム制を機能させるためのポイントは何か、また、若手育成等の人材育成にとどまらず、学校の課題解決や組織の変容にどうつなげていくか等について、当センターでは研究を進めています。

シリーズIの今号では、研修講座受講者へのアンケート結果等をもとに、「校内チーム制を機能させる上で重要な立場」に着目して、そのポイントについて紹介します。

■機能させる上で重要だと思ふ立場



※アンケートについて

H29年10月から11月に、副校長・教頭や若手教員等1540名へ実施。

アンケート結果では、自校の校内チーム制が「機能している」という回答が、84%でした。機能させる上で重要だと思ふ立場の人を重要と思う順から三つ挙げてもらったところ、メンター(先輩教員)、コーディネーター、メンティー(若手教員)の順でした。

また、その理由の記述内容等から、校内チーム制を機能させるためには、メンティーとメンターの活発な「関わり合い」があること、特にメンティーが積極的にOJTに参加し、対話の主体となることが大切であることが見えてきました。

その前提として、メンティーが自身のニーズや意見を遠慮せずに伝えること、意欲的な取組により指導力を向上させることが必要であることも分かってきました。そして、それらが他の教員への刺激となり、学校全体のOJTを活性化させることにつながるという意見もありました。

〈メンティーが対話の主体となるOJTとするために〉

《ポイント1》メンターによる受容的態度と専門性に基づく働きかけ

メンターは、メンティーに立場に近い先輩教員として、メンティーが相談しやすい雰囲気をつくり、メンティーの思いや考えを引き出すことが大切です。また、メンティーの指導力向上のため、優れた教育実践をもとにメンティーと学び合うなど、高い専門性に基づく働きかけがOJTの質を高めます。

《ポイント2》コーディネーターによる学校全体の教育活動に連動させる働きかけ

OJTチームでの協議が個々のスキルアップにとどまらず、児童生徒の成長のために活かせるものとなるように協議や取組を導くこと、チームで出された意見を学校全体で共有し、教育活動の改善に向けて反映できるようにすることが大切です。そのような働きかけにより、チームのモチベーションが高まり、OJTチームの主体性も促進されます。

《ポイント3》管理職によるボトムアップの方式へ導く働きかけ

校内チーム制の構築については、管理職の明確なビジョンや強いリーダーシップが必要ですが、実際の運用では、メンターやコーディネーター等を中心としたボトムアップの方式になるように管理職が働きかけることが大切です。OJTチーム会議の企画運営や今後の校内チーム制の在り方の改善等について、管理職に積極的に提案が出るような環境の醸成が、OJTの活性化や継続的な取組につながります。

シリーズII(2月発行予定)では、学校の課題解決に向けた校内チーム制の効果的な進め方について、具体的な事例をもとに、更に詳しく紹介する予定です。(担当・教育経営部)

※次号の発行は1/31(水)の予定です。

【バックナンバー】<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho/>

